

吹雪峠③

- (1) 天吉は、おまわりさんに色々なことを聞かれて困っていました。「この子はね、ひとみというんだよ。おらの妹だよ」「でもお前のお母さん、お腹大きくなかったろう」「さ、さよなら」
- (2) 「天吉の奴、返事に困つて行つてしまつたか。とにかく村長さんに相談をして、明日調べに行つてみよう。ひょつとすると、あの女の人の子供かもしれないぞ」大川巡査はそう考えていました。

(3) 天吉は急いで峠の我が家へ帰つてきました。

(4) 「おじさんおばさん大変だよ。あのね、駐在の大川さんがこれこれこうだよ」「ああ、それでお前なんて言ったの」「あの、一万円で買つてきたって言つちやつたよ」「呆れたよ、お前はとぼけているからね。困つたわ、どうしましよう」オトヨは、新作に相談を致しました。

(5) 「あんたどうしたもんかね。拾つた子だなんて言つたら、親に返せと言われるかもしないよ」「うーん、せつかく俺たちの子として育てようと思つていたのに。とにかく、よく考えてみよう」

(6) その夜、新作は一晩中寝ないで考えていました。「わしら夫婦には子供がない。せつかく我が子と思って育ててきたのに。この村から逃げ出すより、道は無いようだ」翌朝、新作は

(7) 「なあオトヨ、この子を連れて東京へ行けば、俺の仕事は何かあるだろう。俺はこの子をとられたくないから、そう決心したんだ」「そうかい。それじゃあたしも付いて行くよ」

(8) やがて手早く荷物をまとめると、新作一家は住み慣れた峠の我が家を出て行くのでありました。

(9) 一家は峠を越えて隣村まで行つて、そこから汽車に乗つて東京へ行くつもりでした。その時であります。

(10) 駐在の大川さんが村役場の人を連れて新作一家の家へとやつてきました。「おや、張り紙がしてあるぞ」張り紙には「長々お世話になりました。ありがとうございました。東京へ行きました」と書かれてありました。「東京へ行つてしまつたか、困つたものだな」果して…：